

サービスの水準を維持しながら、 新たな政策を更に進める

板倉町役場

昨年、10月の台風19号直撃とは逆に、一個も本土上陸のなかった今年、県内でも最も低地であり、しかも避難所が圧倒的に足りない我が町としては、その面では有難い年でありました。

しかし、代わって昨年12月頃からの新しいコロナウイルス災害に見舞われ、日本はあらゆるか世界中が未曾有の経済封鎖につながるウイルス拡散防止策での対応を余儀なくされました。

外出、営業、会合の自粛、学校全休、企業休業など、自由圏での戒厳令発令を思わせる経済麻痺状況を経験し、現在GOTOキャンペーンの推進はあっても経済不活性の状況が続いています。予定された東京オリンピックまでもが延期になりました。

その後の11月8日に設定された当町町長選挙、このコロナ感染状況が影響したのか、それとも町長職が魅力を無くしたのか、政治への無関心が大きくなったのか、それとも私にとってありがたいことですが、なんとか過去の町政に

及第点をいただき、もう一期頑張れとの消極的なメッセージだったのか、いずれにしても結果的には無投票当選をさせていただきました。

「有言実行」「公正公平」「全力投球」「町民の利益第一」の変わらぬ姿勢で引き続き頑張りますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

さて、過去12年間就任してからやれるものはハード、ソフト全て対応してきたつもりですが、前政権から引き継いだ、ニュータウン駅南開発や住宅販売は12年間最も力を入れてきたにもかかわらず、結果がなかなか出ないのも事実です。

企業誘致については、ほぼ完売しており、次の立地場所の検討に入っています。八間樋橋架け替え、国道354号バイパス開通、下五箇・飯野防災施設、小中学校エアコン整備、トイレ洋式化、防災無線ラジオ導入、役場新築、小学校統合、スクールバス導入、学校給食の無料化など、大事業も町民皆様のご理解で実現できましたが、未経験なコロナ

対策(新しい生活スタイルや秩序への対応)や、万が一に備える「水害対応と広域避難および自力避難の具体化、東洋大学撤退問題への対応、南・北小学校、資源化センターの再利用、利根渡良瀬架橋建設促進、中央通り線(町道1-12号線)の北伸、循環福祉バスの検討など、次々に新しい問題も生まれてきます。サービス水準を維持し、更なる住民福祉の充実に念頭に無駄を省きながらの合理的政策運営を更に進めてまいりますので、今迄以上に町民皆様と協力、協調の姿勢で頑張りたいと思います。

板倉町長

栗原 実

板倉町役場
Itakura town office